Newsletter



日本養護教諭養成大学協議会

日本養護教諭養成大学協議会 ニューズレターVol. 46 会 長 遠藤伸子(女子栄養大学)

協議会副会長挨拶・・・・・・・・・・1	養護教諭養成セミナー・情報交換会報告・・・・・・
2021年度総会報告・・・・・・・・・・・2	各種委員会報告・・・・・・・・・・・・!
養護教諭養成フォーラム報告・・・・・・・3	協議会活動報告・事務局からのお知らせ・・・・・



副会長 あいさつ

Mary Walter and the

竹鼻ゆかり (東京学芸大学)

大学の教職員を示す言葉に「大学人」がある。 同じ教員であっても、小中学校や高校の教員を指 して学校人とは言わない。この大学人という言葉 の意味合いは、企業人という言葉があるのに対し 会社人という言葉がないことと似ている。大学人 も企業人も、学校や会社とは一線を画し、その組 織の一員としての自立と誇りを持ちながら、責任 ある仕事を担う人を表す言葉と言える。

では、養護教諭養成大学の大学人としての教育と研究とは、何であろうか。

残念ながら、体系だった学問としての養護学はない。養護学の構築に貢献できる養護実践を検証した研究も未だ少ない。今年度の養護教諭養成大学フォーラムならびにセミナーにおいて取り上げた、養護教諭養成大学における教員の教育力と研究力の向上は、私たち大学人とって大きな課題である。

日本教育大学協会全国養護部門研究委員会の2019年と2021年の報告書によれば、養護教諭の活動を科学的に検証した研究の蓄積はほとんどないこと、公表されている論文は、学術論文としての体裁が整っていない、方法論が未熟、文献検討が希薄、論旨の飛躍などの課題があること、養護教諭の研究の実施率は低く、大学教員が指導的にかわっている数が少ないことが指摘された。この結果からは、養護教諭養成大学の教員の役割として次の3つ、自らが養護実践の暗黙知、経験知を形式知、科学知へと転換するための研究を行うこと、学部学生に研究の基礎を教育すること、力のある

養護教諭の研究に指導的にかかわり牽引すること、 が必要であるといえる。

ところで、毎年10月のノーベル賞の発表において日本人が受賞するたびに、日本の研究力低下が話題となる。博士課程は研究力を支える重要な役割を果たすが、近年進学率は2020年度は9.4%と、40年前から半減した。この博士離れの流れと日本が発信している論文数の低下とは連動している。因みに、大学(学部)卒業後、直ちに大学院へ進学する者の割合は、2020年度で女子5.6%,男子14.2%で、男女とも低下傾向にある。養護教諭養成大学の教育と研究を担う力量のある後継者養成は、喫緊の課題である。

さて、新型コロナウィルス感染症が世界的な健康 課題となってから1年以上が経過し、世界中の人々 の生活様式や働き方は大きく変化した。言うまで もなく大学の教育と研究への影響も甚大であった。 一方で研究においては、過去2年で新型コロナウィ ルス感染症に関する研究は膨大な量になった。 文献検索ネットPub MedでCOVID-19をキーワード検索 すると2021年11月現在、20万件ほどある。因みに 東日本大震災直後、私の記憶では僅か4,5件しか なかったtsunamiは、今や3,000件余りある。今後、 感染症はもとよりパンデミックに関連した研究は 各段に増えるであろう。学校保健分野でも子供た ちを感染症から護るための研究が増えることを期 待したい。

今年度のセミナーで朝倉隆司先生がご学友の言葉として「教育は仕事、研究は趣味」と紹介された。筆者自身は、教育は学生への愛、研究は人生でありたいと思っている。コロナ禍以後、社会の変化に合わせ、養護教諭養成大学における教育と研究はどうあるべきか、養護教諭養成の大学人として、本協議会として、考えていかねばならない課題である。

2021年度総会報告

開催日時:2021年10月10日 開催方法:オンラインによる開催

2021年度総会を終えて

会長 (遠藤伸子)

昨年度の総会は、メールを介しての報告・審議 となってしまいましたが、今年度は、スタジオ からのライブ配信とし審議事項についての投票 もリアルタイムで行うことができました。

首都圏をはじめ複数の都道府県で緊急事態宣言中ではありましたが、93校の代表評議員のご参加のもと滞りなく進めることができました。総会終了後のアンケートでは、多くの方から「進行がスムーズで手際が良かった」「事業報告や計画が良くわかった」という感想を戴きました。中には、「総会については経済的効率的であることから今後もオンラインでやってはどうか」というご意見を戴きました。会員校の皆様のご理解とご支援に心から御礼申し上げます。

新型コロナ感染の第5波の予兆がある前は、 今年度も対面開催をしないという決定で良かったのか幾度か自問致しました。先を読んで開催計画を立てることの難しさを痛感しております。そこで、次年度の総会について国答を戴きましたが、回答を戴いた70名の方の94%が次年度もオンライン開催を支持であるという結果となりました。主な理由は、「地方なので交通費や宿泊費の削減になる」「総会があったの対面参加は無理であったが、オンラインであったため参加ができたから」等でした。

また、次年度は例年使用している品川区立総合区民会館「きゅりあん」が改修工事のため利用できません。そのため、今年と同じようにライブ配信で行うことと致しました。情報交換会については対面でしたいというご希望もあるので今後検討して参ります。





2021年度総会報告

副会長 (池添志乃)

新型コロナウイルス感染症による感染予防の 観点から、2021年度の総会は、9月10日(金)に オンラインにて開催いたしました(議決権を有する 会員校135校のうち参加93大学、委任状24大学)。

遠藤会長より、開会の宣言がなされ、コロナ禍でのオンライン開催という試みの中、多くの会員の方々にご参加いただけたことに感謝が述べられました。総会議長として、内山有子先生(東洋大学)、佐久間浩美先生(了徳寺大学)が選出され、以下の議題が審議並びに報告されました。投票はzoom機能を用いて行い、委任状24を含め、過半数を超えた場合に承認といたしました。

- 議題1 2020年度事業報告:遠藤会長より報告 され、承認されました。
- 議題2 2020年度決算報告:下村前理事より報告され、承認されました。
- 議題3 2020年度監査報告:西牧監査委員、砂村監査委員が欠席であったため、議長の代読により報告され、承認されました。
- 議題4 2020年度事業(中間)報告:遠藤会長 より報告され、承認されました。
- 議題5 2021年度修正予算(案): 松枝理事 より提案され、承認されました。
- 議題6 2022年度事業計画(案):遠藤会長 より提案され、承認されました。
- 議題7 2022年度予算(案): 松枝理事より 提案され、承認されました。



*,**,**,***,***,*<mark>*,*</mark>*,**,**,**,**,**,**,**,**,**,**

2021年度養護教諭養成フォーラム報告

開催日時:2021年10月10日 開催方法:オンラインによる開催

今年度の養護教諭養成フォーラムには、お二 人の講師にご登壇いただきました。

講演1の朝倉隆司氏には、続く養成セミナーのメインテーマである「養護教諭養成大学教員の教育・研究力の向上」のベースとなるご講演をお願いしました。講演2の三木忠一氏には、学校保健の政策の動向や養護教諭養成大学協議会への期待についてのご講演をいただきました。

講演1

養護教諭養成に関わる大学教員の資質向上 一研究力の向上一

講師 東京学芸大学 名誉教授 朝倉隆司氏

養護教諭養成者が研究することの重要性、養護関連のエビデンスの蓄積を考えていかなければならない研究の課題について、改めて、学ぶことができた。研究の進め方の基本から発展的にお話をうかがうことができ、研究についてよく整理して考えることができた。

また、養護教諭の経験や実践をどのように研究につなげていけばよいかを研究方法論と研究デザインについてお示しいただき、今後の研究を進める上での指針になった。また、実践を研究にする課題や教育研究の問題点についてもお話していただいたことで、自分の研究に役立てるだけでなく、学生指導や養護教諭との共同研究等で活用したいと考えた。

大学教員にとって研究は極めて重要であるが、 社会に貢献できる研究とはどのようなものか、 よい研究とはどのようなものであるか、深く考 えることができた。また。現在求められている 研究について教えていただき、研究に対する モチベーションが高められた。

さらに、養成大学の教員として学生を教育していく中で、研究指導者としての在り方についてもご教示いただき、知的好奇心を刺激される充実した時間となった。

質疑応答も活発になされ、よいメンターの探し方、介入研究や実践研究での留意事項などについて深められた。研究は自分を育てることと考え、一層努力していきたい。

(文責:今野洋子)

講演2

養護教諭養成大学協議会ならびに 養護教諭への期待 講師 文部科学省健康教育・食育課課長 三木忠一氏

学校保健を取り巻く課題と政策の動向について、お話しいただき、改めて養護教諭の役割について深く考えることができた。

新型コロナ感染状況に対する学校の役割は、 多様である。様々な通知を理解したうえで、 ICT環境づくり、心のケア、教職員の感染症対 策、メンタルヘルス等に活用していかなければ ならないという養護教諭の役割を改めて考える ことができた。抗原簡易キットの配布やワクチ ン接種の推進等の取り組み強化などについても 理解していなければならない。また、感染症対 策に必要な保健衛生用品整備についても、養護 教諭は配慮しなければならないと考えた。

学校健康診断情報PHR (Personal Health Record) の活用なども視野に入れ、養護教諭として児童生徒の心身の健康の保持増進に努めなければならない

保健教育の面では、がん教育における知識の 定着といのちの大切さの理解を進めていく必要 がある。また、発達段階に応じて性犯罪・性暴 力から身を護る知識や方法の理解を進めること も大切である。子どものいのちを守るための教 育の推進は養護教諭にとって欠かせないことで ある。

養護教諭は保健室を中心に多面的に活動しており、専門家とのコミュニケーション力、幅広い普段の自己研鑽への好奇心と自己研鑽力が期待されている。これらのことを念頭に養護教諭養成に努めたい。 (文責:今野洋子)



2021年度養護教諭養成セミナー報告

開催日時:2021年10月10日 開催方法:オンラインによる開催



教育課程・養成制度検討委員会 委員長 大川尚子(京都女子大学) FD検討委員会 委員長 鎌塚優子(静岡大学)

今年度の養成教育セミナーは、メインテーマを「養護教諭養成大学教員の教育・研究力の向上」として、教育課程(カリキュラム)・養成制度(法制度)検討委員会とファカルティ・ディベロップメント(FD)検討委員会が合同で取り組みました。

大学の教員に求められる①教育、②研究、 ③社会的活動、④大学管理運営への貢献の 4つから特に求められている能力の①教育、 ②研究を取り上げ、今年度のセミナーでは養 護教諭養成大学教員の教育・研究力の向上に ついて協議を行い、質の高い養護教諭養成教育を保証するための示唆を得ることを目的と しました。

会員に事前に希望を取り、A (教育)、B (研究) 2つのグループに分かれ協議を行いました。

A(教育)グループは、73名を12グループ (6~7名)に分け「教育活動」について話し 合われました。その後、各グループの内容を 全体で共有しました。

各養成機関より、現状及び課題を含めた多くの情報が交流されました。学生にどのような力をつけて学校現場に送りだすのか、保健指導、救急処置、子どもへのかかわり、社会

人基礎力、コミュニケーション力等、幅広い 観点での話し合いが行われました。

他に、「各講義での工夫と課題」、「現場で必要な実践力の育成」、「オンライン授業について」、「ICT教育について」、「養護教諭養成カリキュラムについて」等、各グループで話し合うことができました。

B(研究)グループは、43名を8グループ(5~6名)に分け「研究活動」について協議し、その後、各グループの内容を全体で共有しました。主に、「研究メンバーの構築」、「調査に関する倫理審査のハードルがあがっている」ことや、「研究時間」「フィールド」の確保の難しさ、研究について相談できる「メンター」の存在や「研究に関する学び直し」必要性が挙げられました。その他として、「実践を研究的に捉える難しさ」、「養成大学による研究と教育のバランスの違い」「養成大学の教員同士が相互につながることへの期待感」などがありました。

セミナー全体を通じて同じような悩みや状況があることが分かりました。協議会への要望としてはICTに関する研修、養成教育の内容を現職の養護教諭の先生方にも知ってもらう必要があるなどの意見が出されました。

多くの会員の皆様にご参加いただきありが とうございました。また、司会や記録をご担当 いただきました先生方には大変お世話になり ました。心より感謝申し上げます。

情報交換会もなごやかに



セミナー終了後、引き続き情報交換会を行いました。オンラインでどのような交流ができるか、担当となった理事の松枝、三森、鈴木の3人で知恵を絞って企画を考えました。まずZoomの投票機能を使ったウォーミングアップ、その後ブレイクアウトルームに分かれ、チャットの質問項目などを会話のきっかけとしてフリートークで交流を深めました。終了は午後5時20分。午前中のフォーラムに始まり、総会、セミナー、情報交換会とZoomの画面越しの長い一日でした。みなさまお疲れ様でした! (文責:鈴木裕子)

委員会活動報告

養成制度検討・ カリキュラム検討委員会報告

委員長 大川尚子(京都女子大学)

教育課程(カリキュラム)・養成制度(法制度)検討委員会では、本協議会独自の「養大協版コアカリ2020」を活用することで、どの学問体系を基盤とする養護教諭養成課程においても、卒業時に獲得しておくべき力の明確化を図ることができ、養護教諭の資質の担保につながると考えています。

今期の検討委員会の活動は、コアカリキュラムの効果的な活用方法を検討することを目標としています。

第1回検討委員会を9月3日に開催し、コアカリの活用方法について、検討委員が各大学で現在実践している内容や、今後、活用できそうな内容について交流しました。

第2回検討委員会を11月13日に開催し、来年度 にむけてコアカリ活用についての実態調査の 準備をする予定になっています。

今期は下記10名のメンバーを中心に活動していきます。実態調査も含め、会員校の先生方のご意見をうかがいながら進めていきたいと考えております。忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員長:大川尚子 副委員長:今野洋子

委員:青栁直子、池添志乃、上原美子、 亀崎路子、諏澤ひろえ、髙田恵美子、

前田美穂、毛利春美(50音順)

ント (FD) 検討委員会報告 委員長 鎌塚優子 (静岡大学)

ファカルティ・ディベロップメ

ファカルティ・ディベロップメント (FD) 検 討委員会では、ハイブリッド型 反転授業モデル の開発等を行う計画で進めています。

本年1月に中央教育審議会答申の中で、初等中等教育における令和の日本型学校教育の構築に向けた「個別最適な学びの実現」が掲げられていますが、高等教育においても重要な考え方の一つです。そこで、ポストコロナを見据え、反転授業を活用した学びのハイブリッド化(対面学習+ICTを利用した学習等)を推進するため、養護教諭養成において核となる複数の授業をもとに、具体的な授業計画を立て進めていくことを検討しています。

反転授業の基本的な考え方や個々の学生に寄り添う学修支援等に関する研修やワークショップ等も企画しながら、会員の皆様と共に授業開発を行っていきたいと考えています。

2022年度の養成セミナーはFD検討委員会が担当となります。

第1回検討委員会を8月30日に開催し、今後の 方向性について検討しました。

第2回検討委員会は、11月29日に実施の予定であり具体的な計画案を検討する予定となっております。

今期は下記7名のメンバーで活動していきます。

委員長:鎌塚優子 副委員長:三森寧子

委員:小川真由子、川越明日香、齋藤千景、

出口奈緒子、西岡かおり(50音順)

広報・渉外委員会より

亀崎路子(杏林大学)鈴木裕子(国士舘大学)



広報・渉外委員会は、2019年度総会において会則第11条に委員会の一つとして位置付けられ、役員2名で活動をしています。ニューズレターは、7月に第45号を発行しました。今後は12月(今号)、3月に発行予定です。内容は、巻頭言、協議会報告、各種委員会報告などを掲載しております。ホームページは、2021年度総会の告知、協議会の案内および報告、新型コロナウイルス感染症に関連する文部科学省からの通知、医療的ケア看護職員の規定に関する学校教育法施行規則の改正の通知などを掲載しました。近年、ICT活用が進み新たな課題も生み出されている状況があろうかと思います。より一層お役に立てる情報の交流ができればと思います。会員の皆様からの情報をお待ちしております。

協議会活動報告

第4回役員会

日時:2021年7月10日 (土) 13:30~15:00 オンライン開催

<出席者>今野、遠藤、大川、亀崎、鎌塚、 鈴木、竹鼻、松枝、三森(書記:亀崎)

<協議事項>①)総会・フォーラム、セミナー について②総会資料案について

〈報告事項〉「教育職員免許法施行規則及び免 許状更新講習規則の一部を改正する省令案」へ のパブリックコメントについて

第5回役員会

日時:2021年8月7日 (土) 9:00~12:10 オンライン開催

<出席者>池添、今野、遠藤、鎌塚、亀崎、 鈴木、竹鼻、松枝、三森(記録:鎌塚)

<協議事項>①ニューズレターの計画、総会資料、活動報告書など進捗状況の確認②2021年度総会・フォーラム・セミナーの全体計画について業者との打ち合わせ

第6回役員会

日時:2021年9月19日(日)15:00~16:30

オンライン開催

<出席者>今野、遠藤、大川、鎌塚、亀崎、 鈴木、竹鼻、松枝、三森(記録:鈴木)

<協議事項>①2021年総会、養成教育フォーラム、養成教育セミナー、情報交換会の評価②2022年度の開催方法等について

<報告事項>各委員会活動について

(庶務 三森寧子)

事務局からのお知らせ

従前、事務局からのお知らせは、本会ホームページやご登録戴いた代表評議員様宛にメール等でご連絡させて戴いておりました。

しかし、昨年よりメールでのご連絡は、代表 評議員様だけでなくご登録戴いた評議員様宛にも 同様に配信させて戴いております。というのも、 会員校様の中には評議員様以外でも本会イベント へのご参加や各種委員会にご協力を戴いている 先生方がおられます。時折、事務局までお問合せ をいただきます。そこで、評議員様へのお願い です。必要と思われる事項については、ご所属の 御関連の先生方へ情報提供をお願い致します。

(文責 遠藤伸子)

養護教諭関係団体連絡会報告

養護教諭関係団体連絡会の今年度の事業計画では、本年4月に文部科学省に提出した要望書の要望事項について、エビデンスとなる調査を実施し、再度その結果を添付し、要望書を再提出することが挙げられています。

その1つとして、養護教諭の情報活用の実状(認識)と課題を明らかにすることを目的とした調査準備が進行中です。調査の準備が整いましたら会員校の皆様にもご協力のお願いをすることもあるかと存じます。その際はご協力くださいますようお願い申し上げます。なお、調査結果がまとまりましたら、会員校の皆様にはご報告させて戴きます。 (会長 遠藤伸子)

会計より

f. a1%, a1%, a1%, a1%, a1%, a1%, a1%, a

<u>Ca'X a'X a'X a'X a'X a'X a'X a'X a'X a'X</u> a

今年度の総会では、2020年度決算、2021年度 修正予算、2022年度予算案を審議・承認してい ただき、誠にありがとうございました。

昨年度オンデマンドで実施した総会・セミナーは、今年度はフォーラム開催も含め、ライブでのオンライン開催ができ、昨年度とも異なる予算執行をしています。先を見据えて、対面でしかできない活動との双方の利点を取り入れた活動で、会員校の皆様に還元できるように努めて参りますので、引き続きご協力よろしくお願いします。 (会計 松枝睦美)

編集後記

ICTを活用した授業や会議が日常になりました。本協議会も、オンラインを通じて繋がれることを確信した年でもあったことと思います。これからも、変化を受け入れながら、会員の皆様にとって有用なニューズレターを編集できるよう努めてまいります。共有したい情報などのご連絡をいただけますと幸いです。

(広報・渉外委員会 亀崎路子 鈴木裕子)

日本養護教諭養成大学協議会

http://www.j-yogo.jp/



【事務局】女子栄養大学

TEL&FAX: 049-282-3609(事務局)

Mail: yogojimu@j-yogo.jp